

高齢者と学生の
路線確保が課題

生活交通に関する 市民アンケート

市民生活課生活安全係 ☎0824-73-1154

庄原市は、市民生活を支える生活交通ネットワークを構築し、長期的に維持できる交通サービスを提供することを目指して、本年度『庄原市生活交通ネットワーク再編計画』の策定を予定しています。

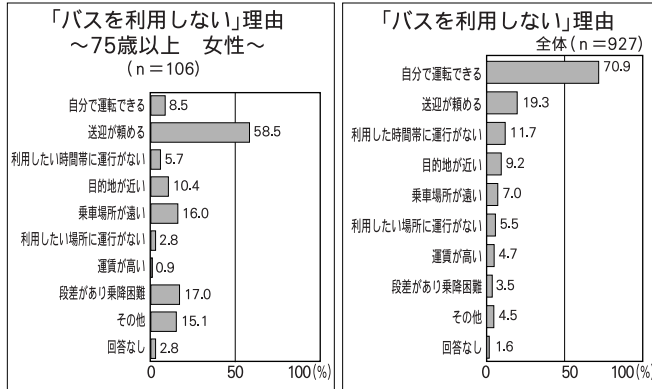
この計画の基礎資料とするため、今年6月、15歳以上の市民2500人を対象に、生活交通に関するアンケートを実施しました。

| | |
|-------|--------|
| 配布数 | 2,500人 |
| 有効回収数 | 1,252人 |
| 回収率 | 50.1% |

バスを利用しない理由は？

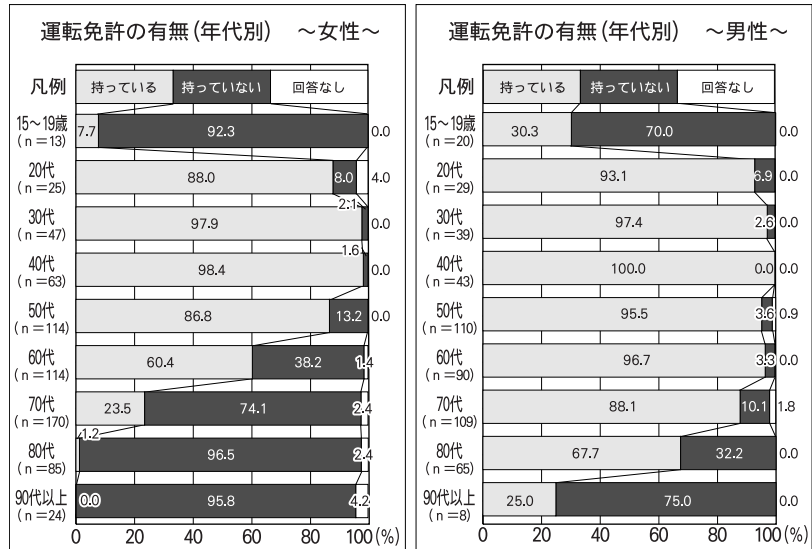
バスを利用しない理由では、7割の人が「自分で運転できる」と回答しています。次いで、「送迎が頼める」「利用したい時間帯に運行がない」からとなっています。

また、運転免許証を持っていない人が多い75歳以上の女性の回答を集計すると、「送迎が頼める」が最も多く、次いで「段差があり乗



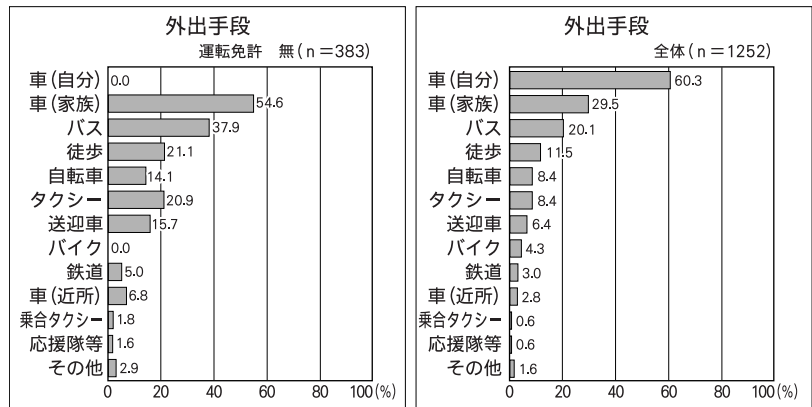
運転免許証の取得状況は？

運転免許証を持っていない人の割合が多いのは、19歳までの男女と、女性の60代以上、男性の80代以上です。これらの年代の方に対する外出手段の確保が必要と考えられます。



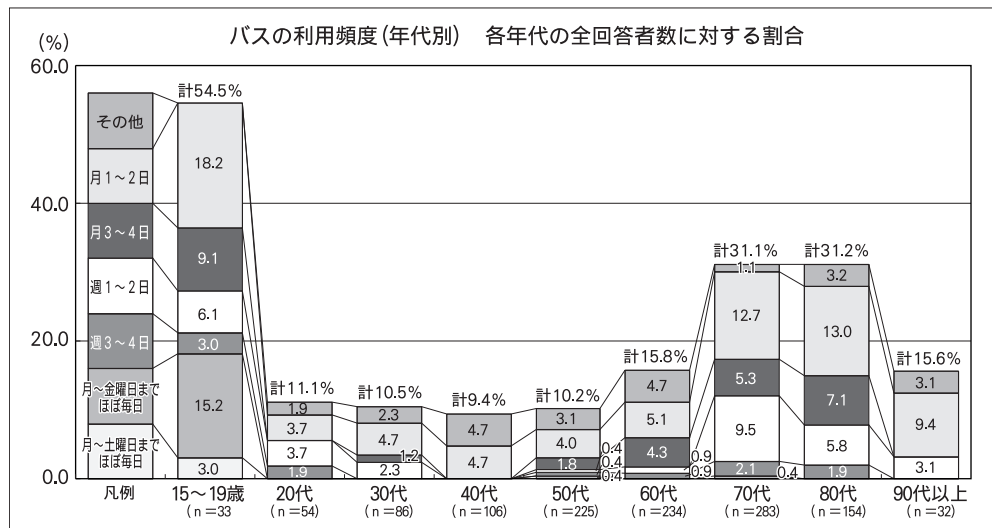
外出手段は？

回答者の多くが、自分で車を運転するか、家族の運転する車で外出しています。運転免許証を持たない人は家族の送迎で外出する人が多いようです。また、バスなど公共交通を頼りにしている人も多いようです。



バスの利用頻度は？

「バスを利用する」と回答した人の割合が高いのは、10代と70代・80代です。その内訳をみると、10代では、他の世代に比べ、「ほぼ毎日」利用する人が多いようです。

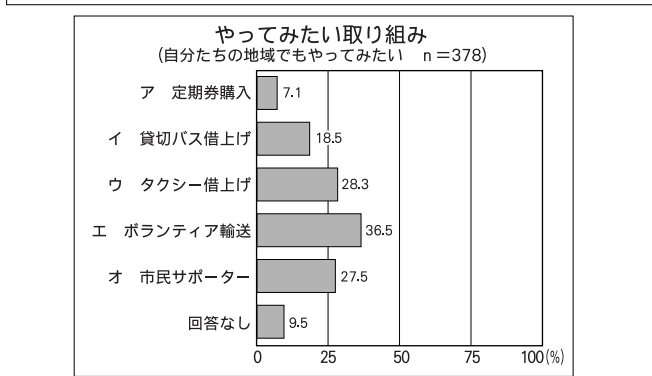
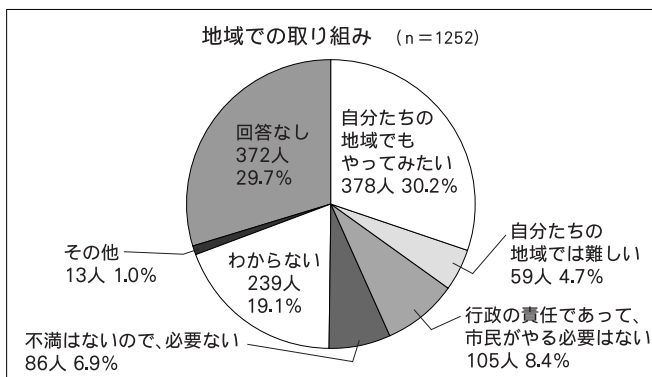
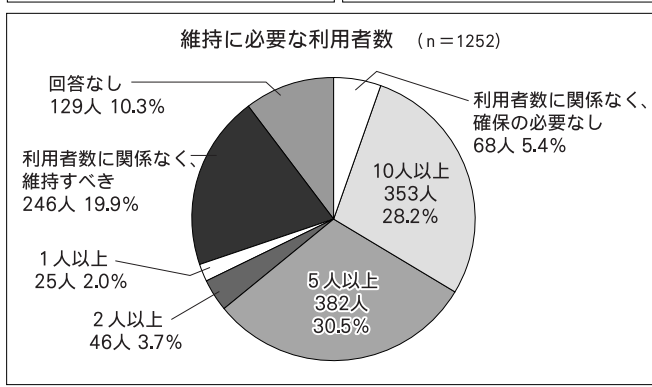


では、「月1~2日」「週1~2日」の利用が多く、わずかのようです。

降が困難」「乗車場所が遠い」となっています。高齢者の増加に伴い、バス停までの移動や、バスへの乗降が困難な人が増えてきているようです。

市が補助などの財政支援を行うべきバス路線は、1便あたりの利用者が何人以上必要？

最も回答が多かったのは「1便あたりの利用者数が5人以上」で30.5%、次いで「1便あたりの利用者



地域での取り組みをどう思う？

全国の取り組み事例を紹介し、回答者の住む地域で取り組みを行うことができるとどう思うか、たずねました。「回答なし」「わからない」が、それぞれ高い割合となっていることから、地域で生活交通の確保に取り組むという意識が広がっていることが推測されます。

まとめ

バスを外出手段としているのは、主に学生と高齢者です。

しかし、高齢者にとっては、バスに「乗降」するだけでも大変であることがアンケートからうかがえます。また、ある程度の利用がない路線については、その必要性について疑問に思う人も多いようです。

今後、市民の皆さんや事業者と一緒に、庄原市にとって最適な交通体系はなにかを検討したいと考えています。ご意見やご協力をお願いします。